

茗荷

上



芭蕉庫

駿河臺中坊家ふたわ柳は又庫を往昔長五年
はめといと此并ふと云ふ事よりの四十五年の
善林を應て明曆三丁酉の災ふ門舎圍庫
ふとしと鳥有とるわと事と此庫ふらわ
幸ふふぬくしをり家最ふふ事ありて之と
南都ふとありあつて老臣演を西氏此并この
又庫ふ字底とつ出して此を焼かすの事と
過こしぬと事とふふ二十五年はつりとり所の
ころより芭蕉翁伊賀此ふらよりあまはる

橋や百夜花月の並とらるる夜

碓嶺

春しる橋の下もかえりけり

相模

葉丸

ふらふらの心と抱ある自れのか

大坂

奇洞

たらしめたりや橋の心もかえりけり

石丸

五月雨塚

園口龍隱庵ふりの 大坂 寛延三年八月三光
子門人若竹甚原等り建るところに地や昔

とをを翁のれふ石川の氷るをせむとて
志はしをすらぬ多ふる旧地るりとそ解ふ
そのれを建ふ後橋もいふれとる昔所の
趣もいふれりとそをいふもいふ今も橋の名
をいふと叫といふり又ある人といふ比川上
み築鏡のほといふあれを建ふ對しあれ
おのりなるもいふとそをいふもいふ今も
あまのなるもいふとそをいふもいふ今も
古人をかれ其蹟をとうけめしその碑を築
と心といふのころのや此碑のころは
その堂をいふれ其肖像を納めるとそ

をめぐらうしぬまをて空堂とまわしを
数寄の古徳不白りもはたうらぶりの一縁取
はくりてあめちをまじりて文化中廢
堂とまわして像もくろの庭中より起尺
高り社中よりわらわちをたるとそ

七子よまの堂へ悟りぬや若くはぬく 京 蒼虬

五月のや夜りもまじりてうらぶれぬ 大坂 孝富

はみれら山葵のまふとふほろりぬ 下総 素行

きんぬれや霧りまじり人見ゆ、 桂丸

青梅や桶ゆきすまきよらぬ草 近江 可盈

まならうはよきしものぞおれり粉 伊勢 ち源

舞はれぬあやえまみ立家内が 大坂 槐堂

南をれ花を并ふそりこのまじりて 摂津 桐栖

空まじりてまみぬるの目えし板板ちる 但馬 芳子

10 山にこり尻焚うらして子まげふ、 眠者

子あやのきぬ流まじりわらわ心こころ 仙臺 子流

無きて挽ゆくもれ小百合も 可松

よこいかと家うらのかめの牡丹が 弄山越後

魚のしとやふふるゑ魚やなれを 松頂

志あゆまえずや夜のの紫菀白田 宥宜

ねの手目ふ氏の神花をぞつり 下総 廣陵

花れら茨すの魚や畔片をい 肥後 未子

矯勢おくや垣根投子田極りの 老い 朶明

苗礫片建れき一人よはの建けは 陸奥 士由

20 よきせとく田あゆ植物のまはら 出羽 御風

あを起る葉の是よりかよおは 上総 儿丁

なるこいつと振るも子のくそ 右衛門 雀老

幸に何よ目ああるりあ 右衛門 年賣

よきわれにあやをせとく 上野 蕉雨

鳴る勢無らあたるる 上野 鹿太

瘦暮ふ月あるとま 系 岱李

月あるとま 大坂 長齋

身孔ををたむる勢の音もくか

尾張

月夜

あつらうけ下宿屋にりあ勢の音

老樗

30 多々すくく音もたみせは木下井

寒松

下宿や花もく音もく

出陣

のとり

竹の子や裏おの音もく

大坂

井眉

生もくく音もく竹植ん

尾張

両后

植やりの音もく小作りか

沙路

竹植もく音もく

出雲

子萩

あけ植て植やもく

上野

茅丸

中れ紫も味片く

物二

竹もく音もく

風谷

うたも音もく

太節

40 多々すくく音もく

お掬

薰炭

坂も音もく

常陸

牡年

坂も音もく

上野

芦邦

なれ月も音もく

雪史

なれ月夜めしとまてたのひかり

九朴

外夜の夜に月とまてははあし架

揚津 暁雨

ゆ安きおのちのめとやなれ面

信濃 雪むら

むく起のめとてんのゆるき田が

長泉

かたさいまを投出す青田のね

女 李江

古きもの流す小歌とす清水の那

家徳

50 山道は貴のちよとてまじけり

諫圃

ひれ歌やまきまてて舞ふるよとらえ

女 寄英

なま子や月のおるともてあふ

右水

水の草ふ入るや横負ふ俵もれ

宇橋

おぼたきやまふ吹くあふの峰

祚旒

夕立れは手こもぬれは木立り

崔布

暮れ月やねくら控る鐘のこゑ

甲斐 曾人

けいせいの人のまゝやほいらね

京 芸老

すしとらふらの家れるゝね

淡路 李村

涼し佐や水ふ心をうほくまて

甲斐 一作

涼しそなまけて引こむ小家り多

菜石

古池

涼川元番所松平遠別炭邸中ふ所の
是則芭蕉庵の旧跡有り

山吹を植多きとれく蛙可那
やうき二張あふと啼く葉漢少
袁丁
雨兼

なまぬかちわうらむ光り
吏牛

やうき夜のちりあや月をたんと枕
越後 東峰

ゆのきや咲日あたらしくあはれ
お換 為見

なまぬきと風の相もや善惜み
加賀 草均

りきげんたのめとては都蛙
陸奥 素純

神性夜の尻撃りまのこき
大坂 笠富

杉をのきよみとるそねのこ
伊豫 米年

鳴るそねのきよみとるそねのこ
程二

✓

るふにたまたまて藪。畠のうらたが 吹石

を桂さくふふりたれゆきふりく 陸奥 圃二

うきふらや 蛙れぬののた橋 茶静

正月のまをそふぬくりもた 宇橋

墨直塚

源川海辺大工町臨川寺あり玄武坊々徒の建
別とところこそ氣氣佛頂禪所ふ系禪の旧記く

堂中禪所と氣と回念の本牌あり亦堂中梅
花佛等此碑あり

時雨塚

源川森下町長者寺あり元禄七年翁の短冊を
うけめて塚の名と守於史邦々小久保集の序又
喬くくす塚れかとり其嵐雨哲の碑ありこまハ
寛保三年翁五十回忌のとき眠柳居まぬ子の
あえをものまのこをさくも亦佛頂禪所乃
古る場とりのたつてぬこわ

神志の... 志五礼... 陸奥 冥こ

之日月... 悟堂

山吹... 電才

そと... 葵亭

舟の... 雨塘

寺の... 燈揚

外... 如州

志五礼... 松頂

一... 就美

10 柏... 水角

志... 景山

志... 寸風

の... 義郎

更... 白牛

早... 右水

水子志守の事記すは此家 甲斐 百二

言ふや〜〜志守の二夜三度 但言 空仙

おのふたしをれんが事〜〜 尾張 少海

夜志守の事記すは 但言 行魚

侍塚

深川六間塚要津寺ありの宝曆十三年十月十二日

聖中庵荻太蕉翁の画一技をうけてあまを

きしはれおの事記す集をあらはす碑を雪中
唐曆世の碑あり

芭蕉庵

同寺門前あり翁七十回忌のとき荻太建之筆

中堂あり肖像安をう唐に蕉翁自画之臺

一脚翁と杜園兩草の紀行一帖嵐蘭追悼の書

漢等翁之於おの事記す集ふ書〜

鯉塚

同所池邊よりあり安永二年四月十一日普成建之
碑面を涼川親和の書之

渡鳥塚

妙村新田元八幡の本よりあり文化二年初秋建之
柳原源三郎と志る寺社改定入此をめぐらる

雲を帯て連り流るるを巻きてまゝり美京院
勝孔地あり

女木塚

ナナキ
小本葱津勝智院よりあり林よりありゆりゆり
小松川といふ向を眺て其日香智遠く社中建之
言のありき新く入り多きて見たり墮
はりり

一 此のこゝより入りあり社あり
大坂 月 居

ゆくをきこみけりしものや 杖れを連 但る 兼房

従つてゆく日 杖や名をりれ 三折家 洪縁 季長

吹巻はむもの 杖よりけりしもの 大坂 尺艾

物より又も余 杖の目れ 秋のくも 京 宣雅

杖の勢をいふ 杖を律より 杖にわけり 下流 金坑

送り火も消て 杖のつらきと 右折 祇岳

杖やけらるる 杖にわけて 杖のけり 但る 玉光

之をうして 杖のけりしもの 但る 先崎

10 杖をきこみけりしものや 杖れを連 出持 聖松

贈ものこゑをよき 杖の目れ 杖の一 仙風

目れ向をうりしもの 杖のけり 川塚

杖の目の中へ 杖の目れ 杖の目 葉静

杖の目の中へ 杖の目れ 杖の目 陸奥 龍就

杖の目の中へ 杖の目れ 杖の目 平岸

杖の目の中へ 杖の目れ 杖の目 尺量

杖の目の中へ 杖の目れ 杖の目 近江 士明



秋の夜のあつたけさよしのれり 出母 双湖

赤い氣をばさしるしきし秋き 出母 渭南

20

柔しき暮入りや合顔に秋 筑前 樹村

残る夜のふもあつたけ 筑前 芳中

れる故郷あつたけの夜 筑前 席杖

秋の夜もあつたけ 筑前 木崎

序やる秋のあつたけ 筑前 起星

こしけふ暮のあつたけ 筑前 加年



あつたけのあつたけ 播磨 穂雪

あつたけのあつたけ 播磨 欣松

あつたけのあつたけ 播磨 吳老

30

あつたけのあつたけ 中尾 三化

あつたけのあつたけ 武蔵 光朝

あつたけのあつたけ 播磨 玉屑

あつたけのあつたけ 大和 孝冬

あつたけのあつたけ 大和 岸石

信濃 武日

出陣 渭缸

京 貞璽

人克

京 茂良

吏牛

老樗

茶靜

薩戸 琴湖

陸奥 午蟄

對了 曙堂

如聖

播戸 舍律

宇摺

近江 垂溪

學堂

50 あらまじきものこれに幸ひり実其辭 但言 馬巷

同會塚

本所後江泉養寺あり延享元年千梅梅尺
建之物り人りあむりあみの五木松とりをそ
りし川上とあとの川や月の友と詠しあむ
しあはれをうたむるまは五本松はらあむ
いふより同會塚と名を稱し子那律所を
あらまじきものこれにあらむ

芭蕉堂

本所多田系系所堂れりくらああり文化
六年系系系系里彼らあらの肖像を安置
すはのりれ芭蕉の古木多し一帯とらけの
ゆりの名あり

一人あつれひるしこのあまかね 花川子

よき水のあつるあつるのあつる 陸奥 系郷

あつるあつるあつるあつる 大陸 岸北

宿のやうにすむ 兼後 竹里

起しれ歌よ 但言 蕙子

眠る 但言 菖雀

思ひけし 但言 吳雪

月 但言 芳洲

あれ 但言 千秋

古給 但言 葉丸

幽 但言 幽喙

途中 但言 共散

お 但言 魚文

船 但言 宇橋

柳 但言 柳也

都 但言 榮静

岩 但言 桧丸

花 但言 純器

路 但言 路秀

20 昨夜もあつたや一日杜菟 陸奥 樵村

あつたや とに 昼洲

此方の 陸奥 雨考

胃 河を子

杜鳥 信濃 洲香

怒る 鷲屋

子規 宿中 又介

奈 武松 不之き

反古 お換 白令

外 信濃 原

30 志 但 原

く 陸奥 日人

桃青堂

本所系之庭東盛寺入阿の寛保三年夕百唐

言光子の建りところを被堂の傍の青像を安
居す其後文化中其日唐白芥かてひ是成
後建す堂申秋の傍の西の像素堂以来
唐の像あむる書ふりひきの寺りて桃
青寺といふを事なぬふるていなりて
芭蕉山といふ歌をうららより桃のま
ちの宿の建りぬるところなりといひ思ふ
るあり桃のまの号も支考りりぬる梅子
いふて蕪もいふるありて別ふ出ところ何
ら心麻布といふ所まも桃院といふ處ハ
必得勝るといふところありぬる文あり人の

いふ詩人の名梅といふあり名桃相回し碧を白
くして至て白きものもさくといゆゆあるの如
くありありいふの味ひある人の又李の白
菊といふ桃青なるらむ名もよま杜を拾を志す
ちうとまといふおれすきねらむといふこと

再案公羽傷于李白
号桃青之證詳見
兼山麗澤和葉

助老碑

本和社染山の池湖の傍り天明四年大享十二日
緇堂素丸子門人兼宗不二齋建之林中楓
樹にや

尾張

尾張

岳格

うすねをきくものころかこおまきり

榮輝

勝もちうしとやふまのうすあうと

虎哉

いばつと林たうりすりしらの如

武松

竹山

くの気れあうかこあまこあまかみ

陸奥

景南

いずらうとてしぬ家様ゆり起す禱ふ

宇橋

盛りとして幹の苔志ふりしらふ

大坂

釣翁

あまのこころあまのこころあまのこころ

る兼

三日月を水ふりしぬあまのこころ

を江

素律

但馬

辰外

眞加塚

本所龜戸矢満宮神社のよりあゆり享和二年

二月廿五日至廟九百年を忌のとき至聖中居

完来社中建之

萩塚

同新羅眼寺より和五年八月葛飾繪堂
素九子尚平卿自芥建之園中萩花の
萩寺とりし

萩花のれはよとや咲く小萩花 心非

ふありのねて端掃とあや萩花 甲斐 蟹守

若ぬらよ若すそよりや萩の花 播磨 千丈

あとの萩花のふれ人のあはれ 若 若年

あはれの人よあはれい言れよよ 少老 湖橋

あはれいあはれいあはれいあはれい 京 十丈

あはれいあはれいあはれいあはれい 美濃 白度

あはれいあはれいあはれいあはれい 京 五芳

あはれの川本よあはれいあはれい 河波 可景

あはれいあはれいあはれいあはれい 武蔵 路里

あはれいあはれいあはれいあはれい 陸奥 可布

あはれいあはれいあはれいあはれい 陸奥 柳村

あはれいあはれいあはれいあはれい 上野 于當

八景の朝日ぬきまどをなすり 台こ

初雲れりしぬきまどぬきり 宇橋

高きらわきのうららかなる 主人 陸奥

息をこころいぬきまどぬきり 雪史

花ゆふゆのぬきまどぬきり 三河 林拳

ふらふらのぬきまどぬきり 湖山

きよきよのぬきまどぬきり 新羅

けりけりのぬきまどぬきり 杜英

花ゆつて月夜をよほしや恒根子 釜吏

うらやまのぬきまどぬきり 加賀 鹿古

懐のしんやうのぬきまどぬきり 竹弓

あつあつぬきまどぬきり 梅合

木はぬきよほのぬきまどぬきり 茶静

きつぬきよほのぬきまどぬきり 吏才

景家

存而町上大雲寺ふりり寛保三年十月翁五十
回忌休善のそめふ自主庵祇徳りぬてこれ
を宝曆五年の冬門人松村桃鏡等こまをに
きぬひしとろそそ此桃鏡といふる祖翁有縁
此人ぬりとまきわ

一とみよまのほしぬ鏡りやうま尾花 系 尾全

志居のぬりぬ志まうしり枯尾をか 紀迄

引のぬり本れぬの目やる礼尾は系 湖山

尾花のまうてあつれて人のぬりうき 肥前 鞍風

まうまうまうまうまうまうま 陸奥 聞二

ふまうしや枯り着りしり能をほま 尾張 梅間

りまは乾鞋とげてあつてまきげり 但馬 林寄

かんぬりとい目をものまねれまうか 箱館 可考

あつてまのふまあつりこのれぬあま 能前 布席

このあつてまのふまあつりこのれぬあま 武蔵 一菓

枯れぬぬりぬぬぬぬぬぬぬぬ 武蔵 碩布

妻小祝きつりて居すりまのりふ 栄静

あつりと枯れりふとらへ鳥この如 お換 松蘿

川るりふかきりきりまてあり敷れ月 京 杜蕪

江を丸くちりりてふそありまの如 武蔵 一素

いさよあも夜をぬけりてあかきり 宇橋

枯れりる葉をみかきりてあつ葉の如 一蕪

あつまふ枯木り写しや小六月 出母 大橋

杉小雀ひてきりてを非せ日 京 茂推

20 十月の宵しえそて西れりら 狐侍

朔日名小喜ち二日ら神しとま 越後 海芥

まの言れかりしと能小なる如 伏見 務少

花ゆきりきり小喜のきやまの蕪 但馬 祥子

高鞍りりりりりりりりりりり 小喜 宇栗

小喜りりりりりりりりりりり 下総 東眞

とらへりりりりりりりりりりり 女 李江

とらへりりりりりりりりりりり 日向 志彦

まことと對するの夕らとり 一す
 明なれや田よ志ひてわく子る 信濃 素染
 新よりわくしきこえぬ乳をりか 巢北
 小坂主の心をむくやみりさく 陸奥 きよ
 飯の序よ抱つてきく 信濃 蕉る

菊菊塚

隅田川白雲社のまじりあり梅の空り門碑之文化土年

金令舎美知彦門人平島建る所の碑のまじ異樹奇
 多き一俗呼ぶ花やまじりのみ

りみもれうそし 時やうめ花 掾 木海
 建りりてゆるる家あり梅の中 河内 未紀
 うめの空をまじりてきく 与 与
 子守の空を 鄙よこりあり 淡路 荊玉
 まじりりてゆるる花波をり 常陸 松江

らるや咲梅一喜花生不り奈 榮静

ありや梅り下庭の莖菜梅 香休

物心見くてりけしとてふあめ梅 丹後 万象

まき代やふらふらあめ梅の十五日 陸奥 俳佛

10 正月の志居くりらと梅のしら梅 暉友

梅ふとよ咲ふとよあめ梅のふら梅 武蔵 蓬仙

物れうめ豆齋のふら梅はほるあめ梅 小倉 宝水

梅うらめ梅あめ梅うらめ梅のふら梅 小倉 石府

畑中や南木らふらふらあめ梅 京 栲蓐

あめの梅れ木も瘦らふと自ふら梅 京 素瓊

梅れららるるあめ梅のもふら梅 陸奥 玉壽

あめ梅のものとあめ梅のうめ梅 伊豆 心何

梅咲し二夜もあめ梅のふら梅 伊豆 琢且

梅子の味ち喰しめしうらめ梅 伊豆 経舟

20 うめらふの歌はあめ梅のふら梅 伊豆 乙坡

梅のりる夜もあめ梅のふら梅 伊豆 玩舟

申しし梅のこがとらぬ花はなる 文つら

黒主あうあふ注し男うぬ 台こ

うぬのふよのうをををの日癖が 益山

有んとの月つ葉ふゆてきあめの花 をに 志宇

梅りのうぬなるまはすのゆりし 下 砥古

うぬのふよのうををの日癖が 下 志宇

干葉して梅とらるきぬ骨は骨 岳岳

梅阿達い月日れん花のけりるき 信濃 八朗

³⁰うぬの香は這入てれぬ花はなる 老樗

梅花とらるふふのうううう 下 小急

うぬのふよのうををの日癖が 下 志宇

大造は船戸のうううあめの花 但 去尺

羊丘より梅咲よそりて花のぬ 峯 一有

梅りのうぬなるまはすのゆりし 下 志宇

うぬのふよのうををの日癖が 下 志宇

うぬのふよのうををの日癖が 下 志宇

越中 布流丸

眠るる花らまきぬ梅れ使の如 甲斐 此叟

うかん踏へしもの志まきや菘雀 元志

40 ちやしと梅見負子りすしゆ 安藤 和切

るおのす片ありしもの光れ花 下流 その

う光の花らまきぬ梅の光り 但馬 松平

月雪れありしもの光れ花 信濃 宗二

整えたりけしもの光れ花 お換 尚窓

く運りぬしもの光れ花 光陸 五介

夜ありのもの光れ花 武蔵 太良亮

らめた月夜の撰と花ら 筑後 曼五

何の中たもの光れ花 系 鳥頂

田一扱もの光れ花 左江 千新

50 花らまきぬ梅の光れ花 三河 卓池

うめをぬしもの光れ花 大坂 万和

消印

